Fukushima 50
フクシマフィフティ

STORY

マグニチュード9.0、最大震度7という巨大地震が起こした想定外の大津波が、福島第一原子力発電所（イチエフ）を襲う。浸水により全電源を喪失したイチエフは、原子炉を冷やせない状況に陥った。このままではメルトダウンにより想像を絶する被害をもたらす。1・2号機当直長の伊崎ら現場作業員は、原発内に残り原子炉の制御に奔走する。全体指揮を執る吉田所長は部下たちを鼓舞しながらも、状況を把握しきれていない本店や官邸からの指示に怒りをあらわにする。しかし、現場の奮闘もむなしく事態は悪化の一途をたどり、近隣の人々は避難を余儀なくされてしまう。官邸は、最悪の場合、被害範囲は東京を含む半径250km、その対象人口は約5,000万人にのぼると試算。それは東日本の壊滅を意味していた。残された方法は“ベント”。いまだ世界で実施されたことのないこの手段は、作業員たちが体一つで原子炉内に突入し行う手作業。外部と遮断され何の情報もない中、ついに作戦は始まった。皆、避難所に残した家族を心配しながら―

CAST

原作は、当時の内閣総理大臣や原子力安全委員会の委員長、東電関係者、自衛隊、地元の人間など、70名以上の証言をもとに記した門田隆将渾身のノンフィクション。佐藤浩市さんや渡辺謙さんなど豪華キャストが作品を盛り立てます。

©2020『Fukushima50』製作委員会

2020年3月6日　全国ロードショー

船橋市がロケ地になったって本当!?

船橋市はロケ地として“高瀬下水処理場”を提供しています。搬入の導線確保等の事前調整を綿密に図り、万全の体制でロケを受け入れ、平成30年12月16日、市の職員が立ち会いのもと撮影が行われました。

撮影当日に先駆け、美術セットの作り込みが2日間かけて施され、高瀬下水処理場の地下管廊は福島第一原子力発電所の“事故現場”に。あの時起きた壮絶な戦いを吉岡秀隆さんらが熱演しています。

撮影に立会った高瀬下水処理場の職員　西澤さんは「普段見慣れている現場が撮影時には別世界に変身して驚きました。リアリティを追及した作品ですね！公開が楽しみです。」と語ります。

今年、注目の映画！

作品から伝わる！ 高瀬下水処理場の意外な一面

船橋市高瀬町にある高瀬下水処理場。市の下水処理施設として稼働しています。実はこの施設には知られざる魅力的な一面があります。それは、映画やドラマのロケ地として活躍していること。打ちっ放しのコンクリート壁と巨大な配管がある地下管廊は、ヒンヤリとした空気感と独特のムードがあり、人気のロケ地のひとつ。これまで『BG～身辺警護人～（テレビ朝日）』や『ウルトラマンオーブ（テレビ東京）』など延べ17作品のロケ地に選ばれています。（令和2年1月現在）

選ばれる理由を映画『Fukushima50』を通して、感じてみてはいかがでしょうか。